

有床義歯学会（JPDA） 事前抄録投稿票

定例会での発表については発表内容を演者、参加者ともに明確に把握する目的で事前抄録を作成するものとする。定例会開催時までにウェブサイトあるいは冊子にて公開し閲覧できる状態とする。

***事前抄録の詳細な記載方法や利益相反に関する資料は有床義歯学会ホームページを参照すること。**

ふりがな 氏名		ローマ字表記
所属 (医院・技工所・ 大学・医局など)		
連絡先	〒 TEL: — — FAX: — — E-mail:	
倫理規定と 利益相反 (COI)	<input type="checkbox"/> 発表内容は、医の倫理、研究倫理に反せず、被検者あるいは患者の同意を得ている。 <input type="checkbox"/> COI 自己申告書を提出し、発表スライドに明記している。	

演題名 (40字以内)		
事前抄録 (600字以内) *詳細は有床義歯学会誌 投稿規定(加筆第八版) を参照		

*事前抄録は「目的」「材料および方法・症例の概要」「結果」「考察」「結論」などを簡潔に記載

◎ 「1 症例の報告」などの事前抄録例

【目的】，【結果】および【まとめ】は不要です。【症例の概要】，【治療経過】，【考察】，【結論】は必ず記載してください。必要に応じて【緒言】や【治療方針】を記載してください。

ものとする。定例会開催時までにはウェブサイトあるいは冊子にて公開し閲覧できる状態とする。

***事前抄録の詳細な記載方法や利益相反に関する資料は有床義歯学会ホームページを参照すること。**

ふりがな 氏名	あだち りゅうほ 安達 隆帆	ローマ字表記 ADACHI Ryuuhō
所属 (医院・技工所・ 大学・医局など)	安達歯科医院	
〒〇〇 山形県〇〇	TEL: 〇〇 — 〇〇 — 〇〇 FAX: 〇〇 — 〇〇 — 〇〇 E-mail: 〇〇@〇〇	性→名の順で記載。 性は全て大文字で記載。
倫理規定と利益相反を 確認のうえチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 発表内容は、医の倫理、研究倫理に反せず、被験者および患者の同意を得ている。 <input checked="" type="checkbox"/> COI 自己申告書を提出し、発表スライドに明記	
倫理規定と 利益相反 (COI)	「、。」ではなく、「,。」 (カンマとピリオド)で記載	
演題名 (40字以内)	下顎前方変位を伴う ClassⅢ無歯顎症例	
「【症例の概要】」など を含み600字以内で 記載	<p>【症例の概要】83歳，男性。主訴：何度か入れ歯を作り直したが痛みがとれない。所見：上顎の顎堤条件は良好だが，下顎の顎堤条件は不良であり，装着していた義歯において上下ともに維持安定は得られていなかった。習慣性咬合位は前方に変位し，ClassⅢの対顎関係は増悪していた。</p> <p>【治療方針・経過】術前診査としてチンポイント変法，術中診査としてGoA 描記法を用いることで前方変位を改善できるかを診査し，アドバンスな吸着印象法を行い，大白歯部人工歯を交叉咬合に排列して義歯を製作した。装着後半年経過しているが術後経過は良好である。</p> <p>【考察】半年経過では下顎の前方変位は起こっていないが今後，生体が前後的な下顎位の安定を求めて，上下前歯が接触する位置まで下顎体の前方移動を引き起こすことや，人工歯の摩耗によって義歯床自体が前方移動する可能性がある。定期的なメンテナンスにて注意深く経過を観察し，必要があれば咬合調整を行い，摩耗が顕著に進めば人工歯交換も検討しなければならないと考える。</p> <p>【結論】本症例では，骨格的に ClassⅢと思われる無歯顎症例に下顎前方変位が加わり，不良な対顎関係が増悪していた。術前，術中に下顎前方変位を改善できるかどうかを診査し，吸着を得るための印象への配慮や，咬合時の安定を得るための人工歯排列を行ったことで良好な結果を得ることができた。</p>	
事前抄録 (600字以内) *詳細は有床義歯学会誌 投稿規定(加筆第八版) を参照		

*事前抄録は「目的」「材料および方法・症例の概要」「結果」「考察」「結論」などを簡潔に記載

◎研究（実験，観察，調査）の事前抄録例

【目的】，【方法】または【材料と方法】，【結果】，【考察】，【結論】を記載してください。

【患者概要】は必要に応じて記載。ヒトを対象とする臨床試験については，事前に倫理審査を要します（本例のような治療の一環としての試みについては倫理審査を要しません）。

ものとする。定例会開催時までにはウェブサイトあるいは冊子にて公開し閲覧できる状態とする。

***事前抄録の詳細な記載方法や利益相反に関する資料は有床義歯学会ホームページを参照すること。**

ふりがな 氏名	こうやま けい 神山 敬	ローマ字表記 KOHYAMA Kei
所属 (医院・技工所・ 大学・医局など)	神山歯科医院	
〒〇〇 福岡県〇〇	TEL: 〇〇 —	「、。」ではなく、「.」 (カンマとピリオド)で記載
	FAX: 〇〇 —	
	E-mail: 〇〇@〇〇	
倫理規定と 利益相反 (COI)	<input checked="" type="checkbox"/> 発表内容は，医の倫理，研究倫理に反せず，被検者あは患者の同意を得ている。 <input checked="" type="checkbox"/> COI 自己申告書を提出し，発表スライドに明記している。	

倫理規定と利益相反を
確認のうえチェック

性→名の順で記載。
性は全て大文字で記載。

「【目的】」などを含み
600字以内で記載

演題名 (40字以内)	異なる咬合様式が咀嚼能率と患者満足度に与える影響について比較した全部床義歯症例
事前抄録 (600字以内) *詳細は有床義歯学会誌 投稿規定(加筆第八版) を参照	<p>【目的】咬合力が低下した全部床義歯患者に対し咀嚼能率の高い義歯は重要である。そこで全部床義歯において異なる咬合様式が咀嚼能率と患者満足度に影響を与えるか検討した。</p> <p>【患者概要】72歳，女性。主訴；痛みは無いが細かい物がすり潰し難い。所見；上顎全部床義歯，下顎部分床義歯。</p> <p>【方法】異なる咬合様式（両側性平衡咬合：B.B.O. リンガライズドオクルージョン：L.O.・犬歯誘導：C.P.O.）の上顎全部床義歯を3床，下顎部分床義歯を1床製作した。更にL.O.では滑走間隙量を0.5mm，1mm，2mmに調整し，咀嚼能率を比較した。上顎総義歯をブラインドでランダムに使用して貰い，義歯装着から約1週間と約3ヶ月後に咀嚼能率検査（グルコセンサーGS-II：GC）を行い，更にVASにて患者満足度を比較した。</p> <p>【結果】咀嚼能率（装着から約1週間及び約3ヶ月経過時）：B.B.O. > L.O. > C.P.O. 患者満足度（装着から1ヶ月経過時）：B.B.O. = L.O. > C.P.O. > 旧義歯 咬合調整の簡便性：C.P.O. > L.O. > B.B.O. 咀嚼能率（滑走間隙量別）：0.5mm > 1mm > 2mm</p> <p>【考察】咀嚼能率はB.B.O.と比べてL.O.では若干劣るが，患者満足度や調整の簡便性を踏まえると本症例ではL.O.を選択することが最適と考えた。</p> <p>【結論】滑走間隙量が咀嚼能率に影響を与える可能性が示唆された。</p>

*事前抄録は「目的」「材料および方法・症例の概要」「結果」「考察」「結論」などを簡潔に記載